

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4つの理念を掲げ、その理念を基にケアを行っている。また、理念を施設内にも掲示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて日々取り組んでいる。毎年、法人の目標に沿って、部門ごとにも目標を掲げ、目標の達成度を毎月評価しながら、実施している。6ヶ月に1回の評価の見直しを行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議等を通して取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭りなどの行事に近所の方を招いたり、散歩中に挨拶を交わしたりと声をかけてもらい、庭に咲いている花を頂くなど交流を図っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には入っていないが、地域の行事には参加し地元の人々と交流するよう努めている。	○ 地域の祭りにこちらから出向いたり、法人の祭りに地域の方々を招いたり、互いに交流を深めている。今後も祭りだけでなく、気軽に交流できるような行事を企画したり、こちらから出向くような機会を作ったりと関係を保っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	通りハ利用者や認知デイの利用者を招いて交流会を行ったり、認知症サポートキャラバン養成講座を行ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価についてはスタッフ全員が実施し、日頃の業務の見直しをしている。これまでの外部評価でのアドバイス事項などを実践したり、具体的な改善に取り組み業務に活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度テーマを持って運営推進会議を行い、サービス向上に活かせるよう努力している。	○	現在定期的に実施できているが、施設長や主任といった固定されたメンバーが主に企画・実行している。今後は全職員でその意義や内容を理解し実施して行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修会等に参加している。また、行事などで民生委員の方に来ていただいたり、地区の社会福祉協議会との連携を図ったりしている。	○	運営推進会議に限らず、他の場面でも市町村担当者との関係を築いて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会などの実施は無いが、すでに利用されている入居者もおられ、活用できるよう支援している。	○	今後、権利擁護などに関する勉強会を実施し、職員全員でその理解を深めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての意識を持ち、防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得した上で契約をして頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月介護相談員を受け入れている。入居者からの意見・苦情などを聞いた職員は法人で取り組んでいる「なぜメモ」にあげ、スタッフに周知し、改善できるよう努力している。また管理者や理事長も必ず目を通すようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の入居者に対しての状態報告などは行っているが、職員の異動等についてはあまり報告していない。	○	たよりや掲示物等に盛り込み、職員の異動等も報告して行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。それ以外にも、家族からの苦情や要望など、なぜメモにあげ、スタッフに周知改善できるよう努力している。管理者・理事長に報告し、速やかに対応し運営に反映させている。	○	意見箱の利用率を上げる為、呼び掛けや投稿しやすい工夫を考えて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2～3回のミーティングや年数回の面談を行い、スタッフからの意見を積極的に取り入れている。施設長は法人全体の会議にも月2回参加し、意見交換を行い連携を図っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法人の部門の責任者で集まって話し合いの場を持ち、勤務の調整を行ったりしている。時間帯についても柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限で大きな変化がないよう配慮している。職員も以前の利用者との関わりを絶たないよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や部門責任者への研修を実施している。また異動後などはスタッフ各自に教育訓練確認表を記入してもらい、どこが不足しているのかを認識させスキルアップに努めている。定期的な、内部研修も実施している。	○	勤続3～5年、5年以上のスタッフのそれぞれのキャリアに応じた教育訓練の実施と評価を行うことで、やりがいを持てるよう支援する。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への積極的な参加や研修を利用し、ネットワークづくりなどに励み、サービスの質が向上するよう努力している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の慰労会として、スポーツやレクリエーションの場を設け、ストレス解消に努めている。	○	レクリエーションだけでなく、食事会やキャンプなど全スタッフが気軽に参加できるような機会を定期的に設けていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に面談などを行い、職員の希望や要望などを聞き入れ、希望に沿うよう努めている。	○	今後「人事考課制度」を取り入れ、個々の目標設定・評価など具体的に実施しながら、常に前向きな仕事ができるようサポートしていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居にあたりご家族にセンター方式を記入して頂き、本人の不安や望む暮らしなどについて理解しようとしている。認知症の状態によっては本人から希望を聞くことが難しい場合もあるが、受け止める努力や気づく努力は行っている。「なぜメモ」の活用によりスタッフ全員で情報の共有を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前後にサービス担当者会議を開き、家族の要望などの聞き取りを行ったり、センター方式に記入して頂いたりしている。また意見箱も設置している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合など、管理者も含めたスタッフで話しあい、様々なサービスの検討も行っている。	○	当法人のケアマネジャーやケースワーカーとも連携しながら相談に応じている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、デイサービスやショートステイを利用し、馴染んでいただく方もいる。その人の馴染みのものを持ってきて頂き使用してもらったり、不安な気持ちを解消できるよう積極的にコミュニケーションを図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの料理法や知恵など一緒に過ごしなが、いろいろ教えて頂いている。又、不得意なことも本人が不快にならないような支援の工夫も行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、家族の協力が必要な部分は一緒に入居者支援を行うようにしている。年1回家族会を実施し、家族の悩みや入居者について情報交換を行いながら、交流できる場を設けている。	○	今後も家族会を定期的実施していき、信頼関係作りを努めていきたい。また、家族同志の交流も出来るように家族会のあり方も工夫していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族で梅干作りを行ったり、息子さんを招待してその方の得意だった冷汁昼食会を実施したり、昔からしていた事を支援できるような環境づくりに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に本人が昔から使用していた家具を置いたり、若い頃の写真や家族との写真を飾るなどご家族に協力していただきながら行っている。入居者の希望により行きたい場所に外出したりしている。又、面会などは本人・家族のプライバシーを考慮しながら受け入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の間に職員が入り、間を取り持つことで、入居者間のコミュニケーションが円滑になり、良い関係が築けるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関わりを必要とする利用者に対しての準備はある。退所後行事に招き、関係を断ち切らないようにしている。他にも退所後、併設の通所サービス利用の提案を行なったりした。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、その人のニーズ把握に努めている。又、本人に直接聞いたり、何気ない会話の中から把握したりしている。 サービス担当者会議・ミーティングを活用し行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し、情報の収集に努め、入居前に利用していた事業所や家族に聞き取りを行い把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録を一人一人記入し、検討項目などはミーティングなどで話し合って周知している。また、ケアプランにも取り入れるようにしている。	○	「なぜメモ」を利用し、スタッフの気付きを大切にしながら入居者それぞれの変化やニーズの把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や要望を基に、それを実現するため、医師や理学療法士・看護師などの専門職を交え行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なプランの見直しや状況の変化に応じ、その都度行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を記入し、特記などは分かりやすいよう記録やなぜメモに残して、ミーティングなどで検討し活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、病院受診やリハビリに付き添ったり、併設のグループホーム、認知症専用デイサービス、通所リハの利用者とも行事を通して交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアを招き、踊りや演奏会を披露して頂いたり、民生委員を招き行事に参加して頂いたりしている。又、消防署の方、地域の消防団の方に立ち会って頂き、防災訓練も行っている。	○	今後、運営推進会議の役員メンバーとして、民生委員や消防関係の方に就任していただき、継続した関係を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向により、必要に応じ行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて協働する準備はあるが、まだそのようなケースは出ていない。認知症サポーター養成講座を開き、そこに地域包括支援センターの職員を招き、連携を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の岡田整形外科や他科の病院受診が出来るよう支援しており、医療との連携を図っている。訪問歯科等利用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医や専門医と連携を図り、情報交換を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の岡田整形外科の看護師により、日常的な健康管理をして頂いたり、気軽に相談にのってもらっている。また、24時間連絡が取れる体制も確保している。	○	勤務のローテーションに看護師が入っており、日々の状態観察や急変時の対応等迅速に対応している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院や通院する場合等、その方の生活歴やグループホームでの生活の様子などを記した入居者情報をまとめ、情報提供している。退院時も、同様に情報を提供してもらっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に対して看取りの同意の指針について説明を行い、同意を得ている。また、本人の状況や家族の要望に応じ、その都度話し合っていく準備はある。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人と家族、医療チームと話し合いながら、本人にとって一番良いと思われる方法など検討していく準備はある。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前にセンター方式を記入して頂き、なるべくその方の住み慣れた場所や環境を把握し話題に取り上げたり、今までの生活の継続を尊重し、落ち着ける場所作りなど配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に入居者の対応の振り返りを行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	座談会を行い、行きたい場所や食べたい物を聞き一緒に作ったり、選んだりしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩に行きたい」と希望があったときは、天気・気温など考慮した上で、外出したりドライブに行ったりしている。	○ 100%できているとは言えないが、なるべく入居者1人1人の希望に沿った暮らし方が支援できればよいと思う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む店には行けていないが、月1回来てくださる美容室の方に「切ってもらおうか否か」本人に聞き、希望者は切っている。行事の時など外出着に着替えたり、化粧をして頂いたりしている。	○ ショッピングセンターへ出かけ、本人の好きな洋服やアクセサリー等を購入する楽しみを味わう機会を設けて行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日一緒に行っている。	○ 調理する楽しみだけでなく、入居者からの希望があれば、出前や弁当といった普段食べる機会の少ない物を提供できるようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	週2回ある買い物を利用し、本人に好きなおやつや食べたい物を選んでもらい購入している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用い、排泄パターンの把握に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声掛けし、本人のペースで入浴している。	○	浴槽に入浴剤や季節に合った湯を入れて、入浴を楽しんでいただきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠そうな時や疲労感が見られる時など、声掛けし休んでもらったりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人のバックグラウンドを把握し、その人に合った役割作りや 楽しみを見つけてもらうような環境づくりを行っている。又、気晴らしには要望の多いドライブや散歩など、外出の機会を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常にお金は使えるようにしているが、本人が所持されていないこともある。	○	週に2回、買い物には出向いている為、能力のある方には支払いの支援をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩へ行ったり、併設の施設に遊びに行ったりしている。	○	行事だけでなく、日常的な場面で気軽に車での外出(遠出)が出来るよう機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として行ったり、家族と一緒に出かけられたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を受けたり、かけたりしている。	○	遠方に住む家族や知人等に対して、文字が書ける人は手紙を書き、不可能な人は写真等送る支援をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	昔ながらの友人や知人など、気軽に来所され、お茶を飲みながらくつろいでもらえるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての意識を職員全員が持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	今後、身体拘束についての内部研修を行う予定。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士の声掛けを密に行うことで利用者の所在を常に把握できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	歩いて転倒につながるような物は、なるべく置かないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に防災訓練を行っている。転倒・行方不明等特に注意が必要な方に関しては個別で対策を立て事故防止に努めている。必要に応じては、内部研修会などで勉強会を行っている。	○	今後、チェックシート等を利用し、スタッフの事故防止に関する対応の振り返りを定期的に行っていく予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDの勉強会の実施。また、一人一人に合った急変時の対応や必要に応じては手順書を作成している。	○	入居者一人ひとりで考えられる急変状態をマニュアル化し、どの職員でも統一した対応が出来るようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防機関を交えた避難訓練を行っている。また、運営推進会議でも議題としてとりあげ、地域の消防団の方とも話しあっている。	○	防災訓練を定期的の実施している。火災時以外の訓練も行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況に応じ主治医から説明をして貰ったり、入居時やその時々に応じた家族と話し合い、なるべく本人が望む暮らしが出来るよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日1回バイタル測定を行ったり、常に状態観察を行っている。管理者や医療連携病院の医師・看護師に報告し、指示を仰ぐようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬一覧表を作成し、いつでも確認できるようにしている。薬服用後の状態観察も行い、職員間で情報を共有するよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、排便状況を確認しながら、個別に応じた働きかけを行うよう努めている。	○	今後は便秘を予防する体操に関する知識を深めていき、実践していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前は必ず行っているが、毎食後は実施できていない。状況に応じ、個別に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には、水分摂取量のチェック表を作成し行っている。毎食後、食事摂取量の確認を行い、併設の病院の管理栄養士に相談したりしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成しており、毎月、感染対策委員がチェック表を基にチェックしている。定期的な内部研修を実施している。	○	FAX等で報告される感染症の状況について情報の共有に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所などハイターやアルコール消毒液などを使用し、清潔に保てるよう心がけている。食材の管理などにも気を配っている。管理栄養士による指導や内部研修を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は施錠しないようにし、玄関周りなど季節の花を飾るようになっている。	○	近隣住民の方々が気軽に訪問できるような環境づくりに努めたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて、テーブルの配置や座る席を替えるなど配慮し、日中も思い思いに過ごしている。	○	入居者や家族・スタッフがゆっくりと過ごせるよう共同空間の充実を図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでいただき、室内のレイアウトなども、本人と家族が使いやすいように自由に配置して頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、換気を行っている。室内に温湿度計を設置。温度・湿度を見ながら、室温調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置したり、バリア・障害をなくすことで自立した生活を送って頂いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	センター方式シートの「できること・できないこと、わかること・わからないこと」を記入しながらケアに活かすようにしている。トイレや居室の場所が分かるように明示したり、失敗してもスタッフが上手にフォローしたりと心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターを置いたり、畑に野菜を植えている。入居者の方は水をあげたり、野菜を収穫したり、草取りをしたりと自由に活動されている。	○	入居者と共に苗を植え、水遣り、草取りを行い、花や植物の成長を感じていただけるよう支援して行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・グループホーム敷地内の畑に旬の野菜を植え、入居者と一緒に育て収穫している。
- ・なぜメモ・ポジメモを活用し、日々の気付きや家族からの要望、入居者のニーズの発見に努めている。なぜメモ・ポジメモを活用することで、気付きの大切さを確認でき、また、スタッフのやる気のモチベーション維持にもつながっている。
- ・毎月、季節毎に企画する恒例の行事に加え、夕涼み会や喫茶店といった新しい企画を考え実行している。
- ・入居者のニーズを個別的に把握し、ケアプランに活かす努力をしている。
- ・運営推進会議を定期的に行い、地域の消防団を招いた防災訓練や、スタッフ・入居者・地域住民が一緒になって楽しめるような夏祭りも実施している。行事や運営推進会議を重ねるたびに、家族との信頼関係も構築され、その関係の見直しも行えている。